



(第8図)

## (8) 飛騨国高山城図 (第8図)

年代 金森時代後期

寸法 約 80×120

所蔵 国立公文書館

表装してあるが、たたんだ表に飛騨国高山城絵図と外題がある。「明治 14 年献本」の印と「日本帝国図書印」の印が押されている。

絵図から読み取れることは次のとおりである。

- 本丸の表記は、「本丸、天主台、南曲輪、東曲輪、岡崎曲輪」とある。
- 中段屋形の表記は、「中ノ曲輪、ヤグラ」とある。
- 大手は、「谷坂」とある。
- 水の手は、「水の手谷坂」とある。
- 二の丸は、「二ノ丸」と2カ所記される。
- 三の丸は、「蔵屋敷」が3カ所記載されている。「三の丸」とは表記されていない。
- 本丸の東と西方向には「此山木立」とあり、緑色に塗彩される。
- 二ノ丸の東南隅から東方向に向けて広い「谷坂」があり、これは他の高山城下町絵図には見られないルートである。この谷坂を下りると両側に「足軽屋敷、足軽やしき」が南北に並び、江名子川を渡る橋があって、「江戸 信濃口」とある。
- 他の街道筋は次の通り

越中街道は、一ノ町南端で「すじかいはし」と記される橋を渡って「もすみ町 越中口」とある。余白に「新町もすみ町 八幡町 三町末一所二成 町ノ長 八町程をも新町ト云 越中道成」とある。

郡上・白川街道は、「美濃 越前口」とある。美濃へは郡上経由へのルートである。

尾張・益田街道は「美濃 京口」とある。

- ・馬場通りを介して、照連寺が赤く塗彩されて15センチ4角で記される。
- ・江名子川は「ゑなこ川」と記される。「歩渡但水出シハ歩渡不成」とあり、普段は歩いて渡れるが、水が出たら歩いては渡れないとある。
- ・東山寺院は赤で印され、寺名の表記はない。
- ・金森時代の下屋敷は「花畑ト云ヤシキ」と表記される。金森氏6代の娘を住ませたので花の咲く畑が多かったのか、それ以前の時期から花の咲く屋敷であったのか、この絵図のみではわからないが、新町が北に伸びていった時代と対比される。南方に馬場が記入される。

橋は江名子川に6箇所、南端に「日口橋」と橋名があるだけで他は記されていない。

宮川にかかる橋は、5箇所、南から「升形はし」「中はし」「はし(現在の筏橋)」「国分寺はし(現在の鍛冶橋)」「はし(現在は無い)」と表記される。

- ・日枝神社は「日吉 山王」とあり、その裏手には溜め池がある。

※山は緑、堀と川はくすんだ青色、侍屋敷・足軽屋敷は黄色、町屋敷は肌色、寺屋敷は赤色にそれぞれ塗られる。

※街道は赤の線で記される。

金森氏は、石垣修理普請の届け出を幕府に提出する際、高山城郭図を提出している(第34、35図)が、その時の城郭姿図とほぼ同じであり、城郭図とこの城下町絵図とが近い時期に幕府へ提出されたとも考えられる。

※掲載されている情報(文章、写真など)は、著作権法上認められた例外を除き、高山市教育委員会に無断で複製・引用・転用・転載などの利用をすることはできません。